

令和2年9月15日

帷子川で生物環境調査を実施しました！！

帷子川におけるアユをはじめとする魚類の遡上環境を向上させる目的で、今川橋下流の落差工（床固工）へ魚道を設置しました（平成31年1月竣工）。

これを受けて令和元年・2年に生物環境調査を行ったところ、魚道設置前は下流側で停滞していたモクズガニ等の回遊性の生物が、魚道設置後には2年連続で上流側でも確認できるようになりました。

また、ヒガシシマドジョウやギバチ等の淡水生の生物ですが繁殖期に遡上することで知られている種の遡上も設置前同様に確認されています。

なお、アユについては2年連続で海から帷子川への遡上が少なかったとみられ、新しく設置した魚道の下流側でも確認できませんでした。

■ 落差工とは

落差工（床止工、床固工、護床工）は、河川の洗掘を防ぎ河川の縦断形状・横断形状を維持するための構造物です。落差工があることによって川の勾配が緩やかになり、洪水時の急激な流れが緩和されます。

横浜市が管理する河川は、勾配が急な河川が多いため、多くの場合は落差工を設けて河川の洗掘防止に努めています。





魚道上流での主な魚類確認状況

(今回)

種名	平成29年7月 (魚道設置前)	令和元年6月、8月 (魚道設置後 1回目)	令和2年7月 (魚道設置後 2回目)
オイカワ	○	○	○
アブラハヤ	○	○	○
ヒガシシマドジョウ	○	○	○
ギバチ	○	○	○
モクズガニ	×	○	○

昨年と同様に、
回遊性の生物
が上流側で確
認されました